

分科会 ④-2 地域の活性化とは？ 自分ができること

1. コーディネーター名

宮原育子

2. 参加者数 9名（山形県7名、宮城県1名、福島県1名）

3. テーマ

地域の活性化とは？ 自分ができること

4. ディスカッション内容

最初に参加者に自己紹介を含め、日ごろの問題意識と、取り組まれていることのお話を伺った。

分科会のメンバーは、公務員をリタイアされたばかりの主婦、建築事務所、現役公務員、起業をされて25年目の方、絵本作家や手芸店のオーナーや、飲食店のスタッフなど、多様なキャリアをお持ちの方々だった。

共通する問題として、地元や震災被災地の人口減少と高齢化が挙げられたが、皆さんの日ごろの活動の中に、地域を元気にするための工夫や考え方などを伺うことができた。福島県の参加者からは、アンポ柿のお菓子の商品化の経緯とまちづくりへの展開へのお話いただいた。宮城県の参加者からは、震災後自分自身で実家の地域の活性化への活動を始めたことを伺った。山形県の参加者では、絵本による被災地の支援や、オリンピックを見据えた外国人との交流の話、庄内地域での港町の女性オーナーの活躍などが紹介された。起業された女性からは、様々な女性団体に参加して、お互いに情報共有しながらビジネスを進めていくことの重要性などが強調された。手芸店のオーナーからは、モノづくりを通じて夢を語る場づくりの可能性を示していただいた。地域がさらに元気になるためには、女性同士ネットワークや夢を語る場を持つこと、自らが動くこと、地域の外の交流を大切にすることなどが本分科会のまとめとして挙げられた。